

[環境庁仮訳：原文を確認の上御使用ください。]

東アジア酸性雨モニタリングネットワークに関する第1回政府間会合  
1998年3月19日、20日 於：横浜

会合レポート

序文

1. 第1回政府間会合は、1998年3月19日及び20日に、横浜において開催された。
2. 会合には、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、モンゴル、フィリピン、ロシア、タイ及びベトナムの代表が参加した。中国の代表は、オブザーバーとして会合に参加した。
3. 国連アジア太平洋社会経済委員会（ESCAP）及び世界気象機関（WMO）の代表も会合に参加した。
4. 参加者リストを別添1として添付する。

開会

5. 山本公一環境政務次官が開会の挨拶を行った。山本政務次官は、本会合の重要性を強調するとともに、本会合の結果が実りあるものとなることを期待する旨述べた。

議長団の選出

6. 議長には、赤坂清隆氏（日本）が選出された。副議長にはシリタン氏（タイ）が、ラポラトゥールには崔氏（韓国）が選出された。

議題の採択

7. 第2回作業グループによって準備された仮議題が採択された。

政府間会合に向けての準備作業

8. 専門家会合の議長であった加藤三郎氏（日本）が、政府間会合の準備作業に先立ち開催された東アジア酸性雨モニタリングネットワークに関する4回の専門家会合について報告した。

9. 政府間会合の準備作業として開催された 2 回の作業グループについて事務局が報告した。
10. 会合は、酸性雨モニタリングに関する技術マニュアルとガイドラインの準備を含め、専門家会合の活動に謝意を表した。
11. ESCAP のカリム氏と WMO のスディーヌ氏は、それぞれ、東アジア酸性雨モニタリングネットワークに関連する可能性のある各々の組織の活動について報告した。両氏は、東アジア酸性雨モニタリングネットワークのイニシアティブを支持するとともに、両機関の関連活動とネットワークの活動の協調を進めていく意思を表明した。

#### ネットワークの設計(案)の検討

12. 1998 年 3 月 17 日及び 18 日に横浜で開催された第 2 回作業グループによって検討された「東アジア酸性雨モニタリングネットワークの設計」についての検討案が事務局によって報告された。
13. 会合は、検討案についての検討を進め、「東アジア酸性雨モニタリングネットワークの設計」を暫定的にとりまとめた。この暫定デザインは、試行稼働によって得られた新たな知見に基づいて更に検討され、第 2 回政府間会合において確定される予定である。
14. 会合は、第 2 回政府間会合において確定される予定のネットワークの設計についての追加的な議論を促進するため、事務局に対し以下の事項を記録に残し、必要に応じて更に検討するよう求めた。

ネットワークの目的において「人の健康への影響」をいかに取り扱うか

ネットワークの意思決定機関の名称と権威を、その権限/機能及びネットワークの仕組に対応して、いかに定義するか

モニタリング戦略に関する科学諮問委員会の任務の記述の順序と内容の確定

精度保証・精度管理(QA/QC)プログラムの技術的内容並びに QA/QC プログラムの開発、承認及び実施の手順

ネットワークセンターの支部を設立する可能性

ネットワークセンター及び事務局の位置

ネットワークセンター及び事務局の運用費用に対するホスト国の貢献の範囲を含む取り決め

#### 試行稼働の実施(案)の検討

15. 1998年3月17日及び18日に横浜で開催された第2回作業グループによって検討された「試行稼働の実施」案が、事務局によって報告された。

16. この案について広汎かつ徹底的な検討が、特に以下の事項に注意を払いつつ行われた。

ネットワークシステムの各組織の目的、構成、性格、任務分担及び任務

ネットワーク全体の構造、情報の提供の手続

最高意志決定機関

主要活動の暫定スケジュール

国レベル及びネットワークセンターにおける研修プログラム実施

暫定科学諮問グループの構成、メンバーと任務

暫定事務局と暫定ネットワークセンターのスタッフ

透明性の確保

17. 会合は、この案を修正し、「試行稼働の実施」の最終文書を採択した。

18. 会合は、暫定事務局と暫定ネットワークセンターをホストするとともに、その運営に自発的な財政的支援を提供する旨の日本の提案を歓迎した。

19. 会合は、準備段階における主要活動と暫定スケジュールについて合意した。試行稼働は、暫定ベースで1998年4月に開始され、2000年中頃に暫定的に予定されている第2回政府間会合までの間継続される。

#### 試行稼働への参加意図の表明

20. 議長は、各国は何時でも外交ルートを通じて試行稼働から脱退できるという規定を引用しつつ、上述の実施のための文書を採択したことにより、参加国全てが全体として試行稼働を開始する意図を表明したと考えることができると発言した。

21. 議長は、中国の代表に外交ルートを通じてその意思を伝えるよう要請した。

#### その他の事項

22. 議長は、以下の会合を含む将来の会合のスケジュールについて発言した。  
・第3回及び第4回の作業グループ会合

- ・第1回及び第2回の暫定科学諮問グループ会合
- ・第2回政府間会合

23. 議長は、暫定事務局に対し、仮議題、会議の場所及び日程を含む上記の会合について詳細案を準備し、参加国が適切な考慮を行うために参加国に送付するよう要請した。

24. 会合は、以下の会合をホストするという日本の提案を歓迎した。

- ・1998年10月に第3回作業グループ会合と第1回暫定科学諮問グループ会合を連続した日程で開催すること
- ・第2回政府間会合を暫定的に2000年中頃の予定で開催すること

#### 会合レポートの検討と採択

25. 会合は、東アジア酸性雨モニタリングネットワークに関する第1回政府間会合（1998年3月19日、20日横浜）の会合レポートを採択した。